

令和6年6月28日

令和6年度 第1回美幌町総合教育会議 会議録

美 幌 町 教 育 委 員 会

令和6年度 第1回美幌町総合教育会議 会議録

1 開催日時 令和6年6月28日（金）

〔	開会	15時00分
	閉会	15時53分

2 場 所 美幌町役場1階 第1会議室①②③

3 出席者

（構成員）	美幌町長	平 野 浩 司
	美幌町教育委員会	
	教育長	矢 萩 浩
	教育長職務代理者	加 藤 哲 彦
	委 員	小 川 慶 子
	委 員	大 沼 美 紀
	委 員	東 海 政 博

（構成員以外の出席者）

美幌町	
総務部長	那 須 清 二
美幌町教育委員会	
教育部長	遠 藤 明
学校教育課長	中 尾 亘
指導主事	藪 下 一 己
指導主事	木野村 寧
社会教育課長	浅 野 謙 司
スポーツ振興課長	弓 山 俊
図書館長	菅 濟
学校教育グループ主査	
	堀 口 貴 章
総務グループ主査	佐 藤 大 樹
総務グループ主査	加 藤 千 恵

（傍聴者） 2名

15時00分 開会

1 開 会

○遠藤教育部長 皆様、お疲れさまでございます。本日は時節柄、大変お忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

ただいまから令和6年度第1回美幌町総合教育会議を開催させていただきます。

本会議につきましては、公開となっておりますので、あらかじめご承知おきます。

それでは、会議次第に基づきまして、会議を進めさせていただきます。

2 挨 拶

○遠藤教育部長 初めに、会議の主宰者であります平野町長からご挨拶を頂きます。よろしくお願いいたします。

○平野町長 皆さん、こんにちは。15時というお約束で申し訳ございません。ちょっと遅れてきて申し訳なく思っております。

皆様方には、お忙しい中、第1回となります総合教育会議にお集まりいただきましてありがとうございます。

皆様方においては、本当に教育長をはじめとして、美幌町の教育行政を担っていただいていることに感謝を申し上げたいというふうに思っています。

今本当に教育の現場で置かれている状況というのはなかなか難しい部分もあり、また、今回、町長に再任させていただいた時の公約でもあります、これは当初からの公約でありますけれども、小中一貫教育を進めていきたいというお願いを皆様にしていただきました。2期の時に、具体的に義務教育学校として一つの形で行えないだろうかというお願いをしております。

本日ににつきましては、皆様のほうでまとめでいただいた小中一貫教育推進ビジョンについて、いろいろご意見を交換しながら、今後

の教育行政に取り組んでまいりたいと思いますので、忌憚のないご意見を賜りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上であります。

○遠藤教育部長 ありがとうございます。

続きまして、教育委員会を代表いたしまして、矢萩教育長にご挨拶を頂きます。

○矢萩教育長 令和6年度第1回目の総合教育会議の開催に当たりまして、教育長として一言ご挨拶申し上げます。

新年度がスタートして約3か月が経過したところでありますが、各学校における教育活動、そして、教育委員会各課における事務事業が本格化しているところであります。

学校現場では、小学校では運動会、遠足、中学校では部活動など、日頃の学習や練習の成果を発揮するために、一生懸命に取り組む姿は、子供たちだけではなく、関わる大人たちにも勇気と感動を与えてくれております。

さて、令和2年度の新型コロナウイルス感染症の感染拡大という予測困難な事態から4年、早4年が経過した中で、子供たちがこれからの複雑な社会を生き抜いていくために必要な資質・能力を身につけていくべく、各学校では様々な工夫を行いながら日々の教育活動に取り組んでいるところであります。

一方では、少子化の進行による学校の最適化や部活動の地域移行、不登校児童生徒の対応など、様々な問題を抱えている状況にあり、美幌町の次の時代を担う人材の育成をするため、教育行政の果たす役割はますます重要になっております。

次代を担う子供たちが夢を語り合い、心豊かにたくましく成長できることを願い、さらに、町民一人一人が生き生きと豊かな人生を送ることができるよう、しっかりと教育委員の皆さんと協議し、皆さんの合意を頂き、様々な教育課題について積極的に取り組んで参る所存であります。

今日は短い時間ではありますが、美幌町の教育の状況を、平野町長と共有させていただきたく存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

ます。

○遠藤教育部長 ありがとうございます。

では、これより議事に入らせていただきますが、これより先の議事進行につきましては、美幌町総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により、町長が会議の議長となります。

ここから、平野町長をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

3 議 事

(1) 美幌町小中一貫教育推進ビジョン（案）について

○平野町長 それでは、早速議事に入らせていただきたいというふうに思います。

お手元の会議資料次第に沿って、会議次第第3の議事、(1) 美幌町小中一貫教育推進ビジョン（案）について、事務局からご説明をお願いいたします。

なお、会議の中での発言等については、皆さん着席で進めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、よろしくお願いいたします。事務局、お願いします。

○中尾学校教育課長 それでは、議事の(1)であります、美幌町小中一貫教育推進ビジョン（案）についてご説明させていただきます。

あらかじめ3種類の資料、図を中心にした概要版、その次が文章で表現したビジョン（案）、ビジョン策定から今後のスケジュール、この三つの資料を配付しております。順を追って説明させていただきたいと思います。

なお、事前に配付しておりますので、各資料のポイントのみご説明させていただきます。

まず初めに、概要版となります。小中一貫教育推進ビジョンであります。

小中一貫教育の基本目標、美幌町の小中一貫教育の推進に当たりまして、美幌町教育大綱に掲げる「夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり」を基本理念としまして、

美幌町の小中一貫教育の基本目標として3本、3項目設定しております。

その下になります。基本目標を推進するため、美幌町が目指す3本の子供像、また、子供像を具現化するために育成したい12項目の資質・能力を設定しております。

設定しております12項目の資質・能力につきましては、さきに実施しております学校アンケートの実態を踏まえまして、ビジョンに位置づけをしております。

次に、基本目標及び目指す子供像、育成したい資質・能力を達成するための実践内容と期待される効果であります。

実践内容は大きく二つあります。

一つ目は、美幌スペシャルと命名しまして、具体的には、英語教育、キャリア教育、ふるさと教育の三つの教育を特色ある教育活動として位置づけまして、自己理解を深め、郷土愛と夢を持って学び続ける児童生徒を育成するものであります。

二つ目、美幌スタンダードと命名しまして、具体的には、日常の授業において、個別最適な学びと協働的な学びを充実させながら、知識及び技能の習得と探究力の育成を、全学年共通の学びのスタイルとして位置づけ、主体的で多様性を尊重する児童生徒を育成するものであります。

美幌スペシャルの三つの柱、美幌スタンダードの二つの柱の内容を推進することによりまして、12項目の育成したい資質・能力が向上し、目指す子供像及び基本目標の達成につながるというビジョンの構成になっております。

一つ目については、以上になります。

二つ目、美幌町のビジョンについてお開きください。

2ページ目の下段になります。

(4)、美幌町における児童生徒の推計について掲載しております。

令和6年度小中学校全体で1,090人の児童生徒が、令和12年度には793人と、6年後には297人の減少が住基から判明し

ており、単純計算でいきますと毎年約50人ずつ減少している計算となります。

参考でありますが、令和4年に生まれた69人は令和11年度に新1年生となり、令和5年に生まれた76人は令和12年度に新1年生となる試算となっております。

続きまして、10ページになります。

(7) 期待される効果<児童生徒>であります。義務教育学校を実践することによる児童生徒への期待される効果であります。

一つ目としまして、合同授業や合同行事等をとおして、異学年の児童生徒同士の関わりが深まり、自己肯定感や有用感が育まれることが期待できます。

二つ目としまして、上学年が下学年に成長モデルを示すことで、上級生としての自覚が芽生え、下学年は上学年に対しての憧れの気持ち、相互に思いやりの気持ちが生まれることが期待できます。

三つ目であります。9年間を見通した指導学習により、一層の学力の定着が期待されるものでございます。

続きまして、11ページ中段になります。

4、義務教育学校による小中一貫教育。

主なメリットを挙げております。

まず、アとしまして、小学6年制、中学3年制に縛られることなく、9年間の課程を柔軟に一体化できること。

イとしまして、一人の校長の下、一つの教職員組織が置かれることで、目的の共有が容易になる。

オであります。子供たちの学習スタイルや学校生活の様式の変化で、中1ギャップなどの段差が軽減されるなどの利点も挙げております。

続きまして、12ページになります。

9年間で子供を育てるという視点で、発達段階に応じた教育課程の編成・実施が可能となります。

資質・能力の育成の重点例としまして、「6—3制」に縛られることなく、学年段階を1～4年生、5～7年生、8～9年生と、

三つのステージに分けて目指す例をお示ししております。

9年間の学年段階は6・3年生のほか4・3・2、3・3・3、5・4など、複数考えられますが、こちらの学年段階の設定につきましては、この後設置する開校検討委員会において協議し決定していくものであります。

続きまして、13ページになります。

令和6年度教育行政執行方針による表明であります。

黒枠で囲った内容の中段になります。

令和6年度教育行政執行方針により、教育長から、施設一体型の義務教育学校1校による小中一貫教育の導入が必要と判断し、学校施設敷地を基本とした改築や新築を行った上で、令和13年度の開校を一つの目安として、スピード感を持って取り組んでまいりたいことを表明しております。

資料2の最後、14ページ、15ページになります。

資料編、学校アンケートの内容であります。

15ページ、(4) アンケート結果であります。回答者に対する「1ある」「2どちらかといえばある」のプラス評価の割合をパーセントで表示しております。

小学生、中学生からの回答結果の美幌町の主な傾向でございます。

2番、チャレンジ精神では、小学生は80%を超えていますが、中学生になると75%に下がっている。

3番、自己肯定感は、小学2～3年生は83%であります。こちらも学年が上がるについて下がっております。

4番、夢実現であります。小学2～3年生は90%を超えていますが、どちらの学校も学年が上がるについて下がっている傾向です。

7番目、公正・公平及び16ページの13、ふるさとへの誇りであります。小学2～3年生は70%台で、小学4年～6年生に一度85%くらいまでは上昇するのですが、中学生で再び70%へ下がるという傾向

にあります。

15、郷土愛でございます。小学2～3年生は95%だったのが、中学生には68%まで下がっているという傾向にあります。

これらの実態を踏まえまして、美幌町の子供たちに育成したい資質・能力をビジョンに位置づけるとともに、美幌スペシャル、美幌スタンダード等の教育活動をおして育成を目指していくものでございます。

最後の資料は、開校に向けたロードマップになります。

令和13年度の開校に向けたハード・ソフト面のロードマップでございます。

推進ビジョンについては、本日の総合教育会議の後、パブリックコメントを経て、7月末には完成する予定でございます。

完成後、基本構想の策定に着手するとともに、開校検討委員会を立ち上げ、ビジョンに基づく取組の協議、開校に向けた基本構想及び諸課題の検討などを行い、基本構想完成後の令和8年度には、開校検討委員会の内容を引き継ぐ形で開校準備委員会の設置・協議による各種検討を部会ごとに行っていく予定であります。

ハードの整備計画につきましては、記載のとおりであります。基本構想で設定する設置場所及び規模によっては、基本設計、実施設計、建設工事を実施する期間が早まることもありますので、ビジョンの完成後、直ちに基本構想の設置場所の検討に入りたいと考えております。

最後、補足となりますが、今回策定しましたビジョンと基本構想の大きな違いであります。

小中一環教育推進ビジョンは、美幌町在教育において、目指す子供像をお示しした内容となっております。この後、作成予定しております基本構想では、学校の規模、設置場所等をメインとした美幌町が目指す学校像をお示しする内容となっておりますので、補足を説明させていただきます。

以上、ご説明させていただきました。よろ

しくお願いいたします。

○平野町長 ありがとうございます。

ただいま小中一貫教育推進ビジョンの案について説明がありましたけれども、皆さんのほうから、ご意見や御質問等があればお受けしたいというふうに思います。

まず初めに、ビジョンの概要と、それから具体的なビジョン（案）について、両方まとめてご質問があればお話をいただきたいというふうに思いますが、ありませんでしょうか。はい。加藤教育長職務代理、お願いします。

○加藤教育長職務代理者 感想といいますか、今まで何年も渡りましていろいろなことを調査したり視察をしたり様々な研究をされた中で、このビジョンというものを作り上げていただきました、事務局の皆さん方にはそのご苦勞に感謝申し上げます。ありがとうございます。

本日このビジョンの内容について、ちょっと話をさせていただきますと、子供たちが減っている状況の中であって、やはり小学校を統合ということを先々見据えなければいけないなと思っている、そういったときに、日本の国全体としての小中一貫義務教育学校でありますとか、そういったものが現れ私たちにも大きな影響がありました。美幌町としてもこのことを進めていくことは、本当に先々を考えますと当然であるかなと思います。また、このことによって美幌町の今まであったものを踏まえた上での新しいビジョンということになると思いますが、やはりいろんな町のこういったビジョン、こういったものを見させていただくと、どこでも出てくるのか、やはり郷土愛ということ。そのことに対してのものが随分と見受けられるように思います。

美幌町においても、やはりそのことは大事なことだと思いますし、子供たちが今、学びを終わった後に町から出て行ってしまうという状況が多くある中で、やはり郷土愛というものをアンケートを見ましても、その部分につきましては、あまり芳しくないような結果が出ておりました。

であれば、このことを少しずつでも、いいパーセンテージに上げていくようなことを、小中一貫の義務教育学校ということであればその中で進めていっていただき、そして子供たちの能力、将来に向けてのビジョン、自分たちがいかに生きていくかということのたくましさを育んでいけるような、勉強して学ぶことも大切なことだと思いますけれども、体験をした中で感じ取っていただくということも、これからは大きなものになっていくのかなと思います。

新しい指導要領になり4年、5年たちますけれども、もう今は当たり前の形になっています。今回の指導要領は、大きな変換もあったと思います。今回の指導要領を進めていく中であっても、この体験という考え方が大切なものだろうかなと思いますし。

コロナ禍に入った辺りから、一貫教育について具体的に考えを進めてきたような感じがしますけれども、町長が教育長でいらっしゃったときに、初めて私たちと一緒に学校の視察というものをさせていただいたときに、習熟度別ということがまず一つの観点でありましたけれども、もう一つあったのは、今言う一貫教育のスタイルとは違ったものであったのかもしれませんが、小中の連携ということを視察させていただいて、こういった形もあるのかなということを漠然と思っていたところに、義務教育学校だとか、こういった形が出てきて、いよいよそのことが長年の念願として、これからまだまだ長いロードがありますけれども、この中で時間がある分じっくりと、このビジョンというものをもとにして、そして基本構想というものを策定させていただき、このことで進めていく中で、子供たちのためによりよい方向というものを進めていただければなというふうに、これを見せていただきまして感じたところです。感想ということになると思いますけれども、私の思ったところでありました。

以上です。

○平野町長　ありがとうございます。

ほか、もしありましたら、ご発言をお願いいたします。

○大沼委員　ちょっと気になった点が、学校アンケートで教員の回収率が少し低いかなと思いました。100%行かないにしても、学校に関することで子供に関わっている教員なので、回答率が低いのがちょっと残念だなというふうに感じました。

○平野町長　何か今のアンケートに関して、事務局側で何かコメントすることがあれば、発言をお願いいたします。

○藪下指導主事　高いほうがいいんですけどね、現実としてこの数字が出ているんですけども9割行っていないんでしょうかね。

○木野村指導主事　子供たちについては、欠席している子がいたりとか、そういうことがあったりして下がっているのかなと思います。

教員については、ちょっと学校間に差があったりしたんです。それが何かというと周知するときにちょっと時間が遅くなって集まりづらかったというのがあったり、先生がいなかったりということがあったりして、大沼委員が言うようにもうちょっと欲しいなとか、我々もそう思っていますけど、休んでいる先生だとかあって、時間がたったのかなという、想像ではあります。

○平野町長　全体的に見ますと、14ページから見れば、ちょっと中学校の部分の中で、小学校は90を超えているんですけど、もともと分母が38だから、ちょっと一人、二人の影響率が非常に高いのかなというふうに思っているんですけども、こういう私が質問していいのかどうか分かりませんが、こういう進め方に対して教員自体があまり協力しないというのか、それとも何となく答えたくないというような思いがあるのか、この辺の読みってどうなんですかね。

高いほうがいいというのは当然あるんですけども、なかなか先生方は個性豊かで、あまり適正な表現ではないかもしれないけども、単純にこういうアンケートを答えてくださいよというときに、はいとなかなか全てが言う

方々ばかりではないのかなというふうに感じるところがあって、そういうことを考えると、数的には高いほうがいいんだけど、この辺が何となく小学校、中学校の先生の割合を見ると何となく勝手な思いの中かもしれないけど、こういう数字なのかなというように感じは受けるんですけど、何か別にコメントは要りませんが、感じるころがあれば。

○藪下指導主事 アンケートは、タブレットを使った状態でやっていますので、誤入力とか、そういうものも当然入ってきますよね。単に推測でしか物を言えませんが、100%になるというのはなかなか難しい、ちょっと提出したつもりでしてなかったとか、そういうものも入ってくると。そういうことを考えると9割は高いかなとは思ったんですけど、学校の先生は真面目だから100%行ってくれという、そんなふうに言ってもなかなか。また、欠席や何やら、期間があまり長くやってるものでもない。忙しいということをお願いの一つとして言わせていただきました。

○平野町長 ありがとうございます。いいですね。はい。あまり掘り下げる話でもないかなと。結果としてこういう数値であったというふうに理解したいというふうに思っております。

ほかご意見あれば、どうぞ、どうぞ。

○小川委員 ビジョンをまとめる上でのアンケートが、すごく子供たちが答えやすい項目になっていたのととても感謝しています。ありがとうございます。

町長が、かねてより子供たちは地域の宝とおっしゃっておられましたので、今のPTAの皆様は一昔前よりすごく忙しくなっているようで、学校運営協議会でいろいろ働きかけてもらいたいと思っているところと相反する動きになっているところが非常に見受けられます。

それで、ふるさと教育ということが、郷土愛が育つように学校運営協議会や地域の皆様の力を合わせて町全体がワンチームになれる

ようなと言いますか、以前コミュニティ・スクールの実践校を視察させていただいたときに、すごく学校自体でいろんな地域の行事に参加されているところもありましたので、子供たちが漏れなくそういうところに参加したり、学校の点数で決められないという、心の成長に非常に感知するところだと思いますので、先生たちだけではなかなか難しい部分を地域全体で支えて、町全体が学校を中心としたワンチームになれるような、そんな学校にしていけたらなという思いでおります。感想だけでも、よろしくお願いします。

○平野町長 ありがとうございます。本当に私が町長をさせていただいた中においては、やはり今、小川委員がおっしゃったように、やはり地域でしっかり支えるというのがやっぱり大事なことのかなというふうに。

ですから、私が教育長になったときに、どちらかというと、まだ学校自体、ちょっとこれも誤解をなるべく受けないようにはお話ししたいと思うんですけど、やっぱり外から入るものに対して、私たちが一生懸命、先生方が頑張っているのに何を言いたいのかという感じであったんです。

ただ、何回も皆さんと行くことによって、単純に先生方の仕事の評価を見るとか、そういうことではなくて、何か自分たちができること、それから先生方にとってプラスになるもの、それから逆に子どもたちにとって何かプラスになるものを、やっぱり委員会としてしっかり見た中で応援していくということが少しずつ分かっていただいて、先生方も非常に信頼関係を作れていったのかなというふうにはちょっと思っているんです。

ですから、よく教育委員会の立場については、先生方にお話しするというのは、あくまでも先生方のサポートをするそのバックボーンというのがやっぱり教育委員会だということに理解してもらって、昔の本当に組合が強いようなときにおいたときに相対するような話ではないという、あくまでも校長先生、それから教頭先生をベースとして、しっかり先

生方がまとまった中、その中の背中をしっかりと押す立場が教育委員会だということを言い続けてきて、多分今もそういう流れだと思うんです。

そういったことを考えて、もう一步踏み入れた方法として、町長にさせていただくときに、コミュニティ・スクールといたら、どうもちょっと言葉が、昔からやっている手法があって、それとちょっと誤解される部分はあるんだけど、しっかりと地域の学校協議会として皆さんが関わって、校長先生は私はこの学校をどういうふうに進めていきたいということを、先生だけじゃなくて地域の方々に伝えて、その中で地域の人たちは、じゃあ私たちはこういうところを応援できるねという形を作ってもらったというふうに思っているんです。

ですから、今、小川委員がおっしゃった、本当に子供というのは、やっぱり地域の宝でありますし、私も今その考えは変わっていないので、そのことをしっかりと皆さんと前へ向いて進めていきたいなという思いではあります。

ちょっと私もコメント出す話じゃないでしょうけど、ちょっとそういうふうなお話を頂いて感じたところであります。

ほか、どうぞ何でも結構でございますので、お話しいただければ。

○東海委員 私は感想といいますか、期待することをちょっと話させていただきたいと思いますが、私は教育委員会に出させていたでいて、なって間もなく小中一貫の方向に話が上がります。それから、視察だとかに行かせていただいたんですけども。その中で教育のこともさっぱり、あまり分からないうちに小中一貫という勉強もさせていただくことになったんですけども、やっぱり視察の中で、やっぱり9年間の義務教育でいかに効率よく教育するには、やっぱり9年間をとおした小中一貫の教育が必要だなというのをよく視察で分かりました。

そうした中で、こうやって美幌町として、

こちらの方向に進むことになったけれども、こうやってビジョンを作成していただきまして、その中で、ふるさと、美幌スペシャルの推進ということで、地域の資源を活用するという内容ですけれども、やはり美幌の風土というか特色をよく生かした教育、現場のそういった学習を主にやったほうが人間的な教育がよくできるのではないかなというふうに常に思うところなんです。だから美幌のそういった特色を生かした教育をして、これからの社会を担う子供たち、あるいは美幌町を担う子供たちの人間性をうまく、よりよく育むという教育に期待したいと思います。

○平野町長 ありがとうございます。今お話ししていただいたのは、しっかりとふるさと教育をしていただきたいという話かなという中において、美幌が持つ風土とか、そういった特色を生かしてほしいというふうに受け止めてさせていただきました。

今の発言に関して何かこう、そう思いますよというような、何かそういう思いも含めて何かあれば。

○矢萩教育長 そしたら、私からよろしいですか。

今の4人の委員さんたちからご意見、ご感想を頂いたところであります。委員さんたちは、これまでに既に開校した地域あるいは今進めている地域の学校を視察して、そこで働く先生方とも意見交換を行ってきたところであります。

以来9年間を見通した教育の在り方を、やっぱり小学校と中学校が十分に共有したことが大切だなというところを委員さん4人と共通認識を持ちました。

私たちが調査を始めた令和2年と比べても、多様性だとかICT教育の浸透、さらにウェルビーイングという、子供たちと教育を取り巻く環境は年々新しい動きが現れているなど思っております。

そのような中で、時代の変化を見据え、小中一貫教育の利点を最大限に生かし、今後の複雑な社会を生き抜いていくと、子供たちが

自ら考え主体的に行動して、社会性、人間性豊かな自他を尊重し、ふるさとと誇りと夢を持って学び続けていけるよう育成したい資質・能力の育成を小中一貫ビジョンに位置づけたところであります。

この先には、基本構想の策定、開校検討委員会の設置と歩みを進めていくところでありますが、今よりも一層丁寧な情報発信とスピード感を持って進めていく考えであります。

どのような場面であっても子供を中心に据えた教育行政を進めてまいりたいと思っておりますので、皆様のさらなるお力添えを頂ければと思っております。

私からは以上です。

○平野町長 ありがとうございます。今、お話を頂いて、この会議というのは、どちらかというと町長が進めるということは、教育ということに対しては教育委員会の組織に委ねている部分がある中において、当然そこに関わる予算とか、それからある意味では町としての考えにきちんと至らなければならないと、そういう意味からいけば、当然皆さんの考えはしっかりお聞きして、逆に私も分からないところを逆に皆さんにお聞きして、その中で町長以下教育長、それから教育委員の皆さんが共通認識の中で町の方針として進めるということが、やっぱり一つの流れだというふうに私も理解しております。

たまたま、私も教育長を6年ほどさせていただいて、代理においてはもうずっと昔から、皆さん、ある意味では一部一緒に歩んできていただいた委員の方もいらっしゃるの、気心も知れているという部分の中でいけば皆さんが考えていること、それから、皆さん方が今教育長が言ったように常に先を見て、どうしたらいいかということで、いろいろな視察を行ったり、それからみんなで論議しているような、論議してきた経過というのは、普通の単純に町長となった人間よりは、本当に教育に関わらせてもらったということでは、理解は多く皆さんと同じ方向で理解できるかなという思いではあります。

今、本当に教育長がおっしゃったように、この進めというのは、これからの未来を担う子供たちのためにだよね、子供たちのためということの本質は絶対ぶれることなく、やっぱり皆さんで、私も含めて皆さんで、今回作っていただいたビジョンがよしとして、これをやっぱり丁寧に、これから町民皆さんにとというのはちょっと大き過ぎかもしれませんが、まずは本当にこれから子供たち、要は一番子供に関わっている保護者の方々に理解してもらおう。そして、一つの動きとすれば、町全体に美幌の教育はどこを考えていて、手法としてこういうものでやるということ、を、しっかり伝える必要があるのかなというふうに思っていて、そういう意味では皆さんにそれぞれ結構ご苦労をおかけするのかなというふうに思いますけれども、しっかり私も理解した中で皆さんと一緒に歩んでいきたいというふうに思っております。

そしたら、このビジョンについてはよろしいですね。皆さんの思いの中できちんとまとめたもので、私もきちんと理解をさせていただいたということで、理解いただければというふうに思います。

次に、今後のスケジュールということに対しての何かご意見等があれば承りたいというふうに思っています。今、本当に町として、これから美幌の教育の一つの在り方という部分ではビジョンを作ったんですけど、今度は具体的に設置場所とか学校像とかまとめるという、ここがやはり町民にとってみれば一番関心のあることでもありますし、逆に言ったらもめるというか、いい意味で意見を出し合えばいいんだけど、やっぱり自分の立場だけを、今小学校であれば三つあって、中学二つあって、やっぱりそれぞれの歩んできた歴史があったときに、非常にこの辺の取扱いというのは非常に大変な思いをするのかなということに感じるんです。その辺で何か心配事とか、それから、いやいや、こういうふうにしていけば大丈夫だよと、次に進んでいけるよというようなアドバイスも含めて感じるも

のがあれば、ちょっと発言いただければというふうに思います。

○小川委員 一緒に絵本読み聞かせで活動している東陽のPTAのお母さんからのお話なんですけれども、やっぱりお母さん方としては、この町の子供の数の規模で3校というのはちょっと不思議だよねという声も聞くよということで、実際そのお母さんやお父さんにしてみれば、よりよい子供たちと学校の在り方というのは非常に早く作ってほしいと期待しているところと聞いております。

やっぱり町長が心配になっているのは、もともとそこにずっと美幌のためにご尽力いただいた地域の皆さんのその熱い思いが、ちょっと今までと形が変わることへの不安なのかなというふうには思います。ですが、その不安を情報発信で解きほぐすことで、明日のよりよい子供たちのために皆さんでご尽力していただければ、いい方向に行くんじゃないかなと思っております。

○平野町長 非常に力強いお話いただきましてありがとうございます。

ほか、何かありませんですか。

○加藤教育長職務代理者 今までのビジョン策定までについては、実は内部で検討することが主体でしたけれども、これからいよいよ開校の検討委員会を設立するですとか、もう町民の中の子育て世代の方々をはじめとして、このことに対する関心というのはちょっとふつふつとしているところがあると思います。これからいよいよ皆さんを巻き込んだ検討委員会の立ち上げというふうになってきますと、やはり町長が心配されるように様々なことが出てくるだろうなと思います。やはりそのことを解決していくのには、小川さんがおっしゃったような、いろいろな情報をこまめに発信をしていくということもあると思います。それと、一つ一つのことに丁寧に対処していきながら進めていくということも大事なことかなと思います。

何分期限はある程度のところで決まっているところがあります。前後するところは多少

は起こってくるのかなとは思いますが、その中で進めていくことですので、スケジュールというものを段階的にここまで、次はここまで、ステップステップの切り目というものを、節目というものをしっかりと捉えながら進めていくということも大事になってくるかなと思います。

いずれにしても、本当に小川さん、皆さんがおっしゃって考えているとおりのことです。子供たちのためのことですので、よりよい形ができるような進め方をしていただければなと、そのように思う次第です。

○平野町長 ありがとうございます。

ほか、何かございませんでしょうか。

○大沼委員 子育て、教育は、人生における最大の事業という言葉聞いたことがあります。美幌町で、この令和13年度の開校に向けて、家庭、学校、行政、企業、自治会、そういう枠組みを超え、町民の皆さんや美幌町に関わるほかの町に住んでいる方々皆さんで様々なことを考え検討しながら、たくさん話し合いをして進んでいければと思います。

○平野町長 ありがとうございます。教育長の思いがあれば。

○矢萩教育長 私から冒頭お話しさせていただきましたけれども、少子化が著しく進行していく中で子供たち、未来を担う子供たちの教育環境をいかに向上させていくかということが、やはり大きなミッションだと思います。

そのような中で、実際、今、三つの小学校、二つの中学校を一つにするということは、それぞれの学校にやっぱり歴史もある、それぞれの地域で背負ってきたものもある、それをどういった形で、9年間を見据えて、この地域の子供たちをどう育てていくかということを、このビジョンの中に盛り込んだので、次の段階として目指す学校像をしっかりと合意形成を図りながら進めていければなと思います。

○平野町長 ありがとうございます。今後のスケジュール等についてのご意見を頂きました。皆さんとすれば当然同じようなご発言を

しております。その内容というのは、やはりきちんと情報発信を丁寧にしていくということ。本当にそのステップステップで細かく説明してもらうということをきちんとしていくことが、最終的に全体の合意形成のための一つの大切な手法だよということも、ご理解、ご発言いただいて一致できることなのかなというふうに思っております。

今回、第1回ということですので、これからも定例的にでも、やはりきちんと皆様方との会議、それから場合によっては、あまり型にはまらない会議ではなくても情報交換を密にしていければというふうに思っております。

当然、私どもの組織としては、今日は副町長が他の用務のために急遽出席できなくなっていますけれども、今日、総務部長も来ていて、当然その町全体としての捉まえ方として理解していかなきゃいけない。そういうことを考えますと、やはりこれからについては、町長としての立場で言うならば、教育委員さんとしっかり話すという部分と、それからもう今度は実務的なものとか、それから組織の団体としての教育委員会と町の町長部局も含めて皆さんで協議をして、やっぱり共通認識の中できちんと理解してもらうというようなこともしっかりやっていかなければ難しいのかなというふうに思っております。

そういった中でいけば、今、今回のビジョンを、また別な形でいろいろ皆さんにご意見を頂くような機会を作りながら、ここのスケジュールに書いている本当に具体的な開校検討委員会によって、一番これから大変な思いををすると思われる、要は場所の問題とか、それから既存の小学校3校、中学校2校の移行に対する在り方とか、そういうことをしっかりやっていく必要があるかなというふうに思っていて、私もしっかり受け止めたいと思っております。

一応予定している時間が、今日は大体1時間ぐらいをめぐとしておりますので、今日は示された内容を私もしっかり受け止めました

ので、再度皆さんと共通認識ができたというふうに私は思っております。

あとはせっかくの機会ですので、これだけはずいぶん言っておきたいということがあれば、これからもまたこういう会議を少しでも多くする努力をしたいと思いたすけれども、今日の会議として何かお話があれば、最後にご発言あればお願いします。

○加藤教育長職務代理者 町長の方から、これからいろんな場面で、町長と職員の皆さん方と話をできる機会をという話がありました。私たちもこのこともありますし、また、ほかのこともいろんなことがあろうかと思いたす。ですから、そういった機会を作っていただくようなことがあればありがたいと思いたすし、本当にこういう会議形式じゃなくても、ざくばんな形でお話ができるような機会というものを作っていただければなと思っております。ですから、そのような発言が頂けたことは本当にありがたいと思いたすし、ぜひともよろしくお願いたします。

○平野町長 ありがとうございます。

教育長から何かありますか。

○矢萩教育長 大丈夫です。

○平野町長 ないですか。はい。

今、加藤代理のほうから、しっかり会議だけではなく皆さんと懇談できる、お話ができる機会を作るようにという確認の発言ありましたので、これはお約束して進めていきたいというふうに思っていますので、これからも皆さんに関わっていただきたいと思っております。

一応、今日これで、遠藤部長、いいかな、終わって。

○遠藤教育部長 はい。

○平野町長 あと、那須部長、いいかな。

○那須総務部長 はい、大丈夫です。

○平野町長 いいですか。はい。

4 閉 会

○平野町長 それでは、今年、令和6年度の
第1回の美幌町の総合教育会議ということで、
これで閉じさせていただきたいと思います。

本日はご出席を頂きありがとうございます。
感謝申し上げます。

15時53分 閉会